

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市若林障害者福祉センター
2 指定管理者	社会福祉法人仙台市障害者福祉協会
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 4,146人(前年度比 112.5%) 令和5年度 3,686人(前年度比 132.5%) 令和4年度 2,781人(前年度比 127.1%) 《事業》 ○貸館事業:障害者の自主的な活動及び障害者の福祉に関する市民の自発的活動のための施設の提供その他の援助 ○障害者の福祉に関する講習会の開催その他福祉に関する啓発活動 ○障害者福祉センターの運営管理
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 28,186千円 (26,908千円) ・ その他市が負担した費用 580千円 (820千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 令和6年12月にアンケートを実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	協定書及び仕様書に則った管理運営がなされている。条例に基づいた形でセンター独自の基本方針、職員の倫理要領が策定されており、施設内への掲示や所内研修、センター内他法人との合同会議等において職員間、事業者間で共有が図られている。 また、地域の小学校への障害福祉に関する講座を行う等、障害福祉の理解、啓発に努めている。	27/27
II 施設の運営管理体制	ミーティングや会議を通じて、センター全体で職員の業務状況を共有し、個人情報や情報セキュリティ、事故や災害発生時の対応に関する研修や基本事項を事務室に掲示する等、職員への周知を図っている。	25/25
III 施設・設備の維持管理	清掃委託業者のみならず、職員も日常的な清掃の外、建物の目視確認を行い、安全と清潔を保持できるよう取り組んでいる。 また、仙台市環境行動計画を基に節電、節水、ごみ削減等に取り組むよう職員・利用者へ周知し、環境に配慮した取り組みを実施している。	24/24
IV サービスの質の向上	全職員を対象に外部講師による接客研修等を通して接客マナーの向上に努めている。利用者アンケートでも全ての項目において平均4点(満足)以上と高い評価を得ている。 また、近隣町内会等に広報誌やイベントのチラシを回覧するなど、センターの利用促進に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	日常的に敷地内の点字ブロックや通路、避難経路等を点検・記録し、利用者にとって利用しやすくなるよう、施設の維持管理を行っている。 センターまつりや創作教室等の実施については、障害の有無に関わらず参加を受け付けており、相互交流の場として活用している。講習会の実施にあたっては、アンケート等でニーズを把握したうえで企画している。近隣小中学校の施設見学の受入れを含め、近隣町内や市民センター等へ幅広く啓発活動を行なっている。	9/9

三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）による自己評価》
地域の障害福祉における拠点施設の役割を果たすことができるよう地域交流を図りながら、障害のある方々の社会参加促進と共生社会の実現に向けて、障害の有無を問わず参加できる各種講座や教室、障害者スポーツ体験、ロビーコンサート、センター祭りなど、年間延44回開催し、延464人に参加していただいた。事業実施にあたっては、センターで事業を行う4法人が連携・協働して事業に取り組めるよう法人合同の運営会議を毎月開催し、情報共有や意見交換を行い、円滑な事業実施に努めた。 今年度においては、貸館利用の活性化を図る取組みとして、貸館利用方法や貸館利用者向け講座などの情報を掲載した貸館ガイドを新たに発行し、近隣町内会や来館者などに配布(60部)した。また、近隣町内会には、創作教室の講師を依頼する他、障害者スポーツ交流会や避難訓練などへの参加に協力していただき、良好な関係を築いている。 若年層の障害理解促進に向けた取組みでは、区内中学生の職場体験活動(2校3名)の受け入れを行った他、仙台市障害者相談員と連携して小学校(4校延340名)を対象に合理的配慮や介助法などを学んでいただく障害福祉学習会を開催した。 防災への取組みでは、浸水想定区域に該当した事を受けて避難確保計画を策定し、センター内共有と水害時における防災体制の強化を図った他、仙台市総合防災訓練及び若林区総合防災訓練への参加、東日本大震災時の福祉避難所の運営経験を活かして福祉避難所の開設・運営にかかる研修と訓練に今年度も継続して取組むとともに、大震災で得られた教訓の伝承にも努め、災害時における障害者支援と地域防災力の向上に努めた。 次年度においても、障害福祉における拠点施設の役割を果たすことができるよう地域との連携を密にしながら、障害福祉の増進に努力していきたい。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
障害の有無に関わらず誰もが参加できる講座や教室、障害者スポーツ体験、ロビーコンサート、センター祭りなど多彩な交流事業を年間を通して開催し、障害のある方々の社会参加促進や共生社会の実現に向けた取組みを行ってきた。事業運営においても、センターで活動する4法人が合同で運営会議を毎月開催し、連携や情報共有を重ねることで、事業の円滑な実施につなげている点が組織的な強みとして評価できる。また、貸館利用の活性化に向けた「貸館ガイド」の発行や、町内会への配布といった取組みにより、地域住民への情報提供と利用促進を図っており、町内会との協力関係のもと、創作教室講師の依頼や障害者スポーツ交流会、避難訓練などで協働を進めていることから、地域との良好な連携が築かれている点は、拠点施設としての基盤をより強固なものにしていると考えられる。 人材育成や障害理解促進の分野でも、中学生の職場体験受け入れや、小学校児童延340名を対象とした障害福祉学習会の開催など、若年層への啓発に積極的に取り組んでいる点は将来に向けた意義深い取組みである。 さらに、防災分野では、浸水想定区域に対応した避難確保計画の策定や総合防災訓練への参加、福祉避難所の開設・運営研修などに継続して取り組んでおり、東日本大震災の経験を教訓として災害時における障害者支援と地域防災力の向上に努めている点が特筆される。 総じて、地域交流、貸館活用、障害理解促進、防災対応といった多面的な事業を展開することで、センターは地域に根ざした拠点機能を十分に果たしているといえる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):健康福祉局障害福祉部障害者支援課